

# 第58回 生物多様性研究センターセミナー

- 日時：令和4年6月20日（月） 午後3時～4時
- 形式：zoom 遠隔形式
- 講師：早川雅晴（植草学園大学・発達教育学部）
- 題目：コアジサシの多様性研究の現状



Fig.1

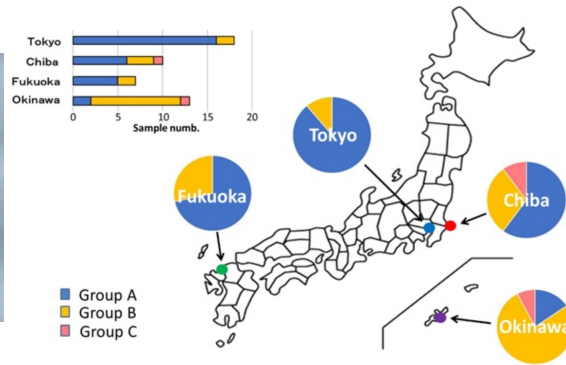


Fig.2

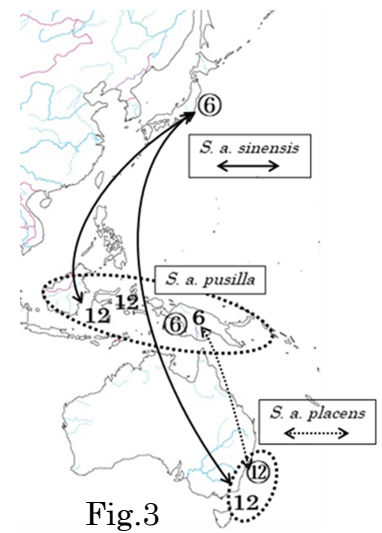


Fig.3

コアジサシ（Fig.1）は南北アメリカ大陸と南極大陸を除く世界に広く分布している渡り鳥である。日本では夏鳥として飛来し、砂浜や大きな川の中州、浚渫土の上等の裸地で営巣している。個体数が減少傾向にあるとみられることから、環境省の Red List では準絶滅危惧種に指定されている。しかし、移動能力の高い本種の個体数や個体群の実態は分かっておらず、この解明のためには遺伝的多様性の把握が必要と考えられる。私達はこれまでに mtDNA(D-loop 領域)をマーカーとして国内 4 カ所の繁殖地で比較を行い、関東で繁殖する集団と沖縄で繁殖する集団は異なる傾向にあることを示すことができた（Fig.2）。しかし、明確ではないため、今後はより精度の高い遺伝子マーカーを使用することで違いを明らかにしていく必要があると考えられる。

国外に目を向けると、2022. IOC World Bird List (v 12.1)では、コアジサシは3亜種に分類されており、太平洋西岸に生息するグループは1亜種（*Sternula albifrons sinensis*）とされている。一方、Christidis et al.(2018)はオーストラリアで繁殖している集団を別亜種 *S.a.placens* として独立させている。さらに、Gochfeld et al. (2019)では、インドからミャンマー・インドネシア西部にかけて留鳥として生息している集団を別亜種 *S.a.pusilla* として独立させており、*S.a.sinensis* は東アジアで繁殖し、オーストラリア等で非繁殖期を過ごす集団のみとしている。太平洋西岸に生息しているコアジサシを1亜種とするか3亜種とするかは決着がついていないが、本種の多様性を理解する上でも検討していかなければならない。これまでは形態情報・生態情報（渡りの経路等）を基に分類が試みられてきたが、形態では明確な違いが認められず、生態的には3集団が渡りの中継地や越冬地で混群をなしていること（Fig.3）で判断を難しくしている。今後は、遺伝的なアプローチを積極的に活用して総合的に亜種の有無を判断すると共に、個体群内の遺伝的多様度の把握に努めることで、保護対象集団を明確にする等の保護政策のエビデンスを担保することが必要と考えられる。

## zoom 接続情報

zoom ID: 725-863-5686

zoom passcode: 0149768

問合せ先：熊澤 慶伯（名古屋市立大学理学研究科、電子メール：kuma@nsc.nagoya-cu.ac.jp）